

# Cisco CallManager 3.2.2 spD によるコールのボイスメールへの直接転送

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定の概要](#)

[ボイスメール プロファイルの設定](#)

[CTI ルート ポイントの設定](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco CallManager 3.2.2 spD では、コールをボイスメールに直接転送することができます。このとき、ユーザの内線を呼び出す必要はなく、また、オープニング グリーティングを聞いたりする必要もありません。この文書では、設定プロセスの詳細について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ボイスメール プロファイルの設定
- コンピュータ テレフォニー インテグレーション (CTI) のルート ポイントの設定

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unity 3.x ( Skinny )
- Avaya デジタルに信号を送ることの使用と Octel に接続される Cisco Digital PBX Adapter ( DPA ) ( Skinny )
- アナログ信号方式および簡易メッセージ デスク インターフェイス ( SMDI ) の使用と Octel に接続される Cisco VG248 Analog Phone Gateway ( Skinny )
- 音声メールシステムに接続される Cisco SMDI
- デステイネーションクラスタの上記のいずれかの使用のインタークラスタ トランク ( H.323 )

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## [表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## [設定の概要](#)

この資料で設定を使用する場合、アスタリスクおよび拡張にダイヤルすることはその拡張と関連付けられる音声 メールボックスに発信者を直接廃棄します。この機能は、ボイスメール プロファイルにボイスメール ボックスのマスクを設定し、これをアスタリスクに対応する新しく作成された CTI ルート ポイントに関連付けることで作動します。コールがボイスメールに送られる前に、ボイスメール ボックスのマスクによってアスタリスクが取り除かれ、内線番号の部分が Redirected Dialed Number Identification Service ( RDNIS ) のフィールドに設定されます。

**注:** アスタリスクの使用は要件ではありません。アスタリスクはこの資料の目的の一例として使用されます。アスタリスクの代わりに数の個別のシーケンスを使用できます。この機能のためのダイヤル シーケンスを頻繁に始めるアスタリスクのような特殊文字の使用はほとんどの標準ダイヤリングプランにアスタリスク キーから始めるパターンがないのでよい計画です。通常は、0 から 9 のような数値は使用しません。

## [ボイスメール プロファイルの設定](#)

この例が示すと同時に、新しい音声メール プロファイルは作成する必要があります。プロファイルは TransferToVM とそれをユーザの電話によって関連付けられる音声メール プロファイルと区別するために指名されました。ボイスメール パイロットには、現在設定されている代表番号を設定します。ボイスメール ボックスのマスクには、5 桁のダイヤル計画に合わせて、ワイルドカードの XXXXX が指定されています。4 桁のダイヤリングが使用される場合、にこのワイルドカードを設定して下さい。

ダイヤリングプランが右から始まって、このワイルドカード ダイヤルされた数字と一致するものは何でも。マスクによって一致するディジットに先行する何でも除去されます。

**注意:** このプロファイルをシステムのデフォルトのボイスメール プロファイルにはしないでください。

## [CTI ルート ポイントの設定](#)

新しい CTI ルートポイントを作成して下さい。このセクションの例は TransferToVM と指名される 1 つを示したものです。この装置には、他と同様に、Device Pool、Calling Search Space、Location を設定します。これはあらゆる CTI アプリケーションによって決して登録されていない、ディレクトリのあらゆるユーザに関連付けるべきではありません CTI ルートポイントであり。

CTI ルートポイント行の設定はこれを完全に可能にします。この例では、ディレクトリ番号は \*15XXX に設定されます。この設定は容易にすべてのメールにボックスを転送するまたはちょうど 1 つのユーザ メールボックスに転送するべき \*15654 粒状何かのどれである場合もあります。音声メール プロファイル フィールドのための [音声メール プロファイルのセクション](#) [設定](#)

で作成した選択し、音声メールに自動転送および積み込み設定の下で『Forward All』を選択して下さい音声メール プロファイルを。

この場合だれでもユーザ メールボックスことができます (または誰でも拡張は CTI ルートポイント ディレクトリ番号に含まれています) 直接呼出す。複数の、別々の音声メールサーバが、Octel および Cisco Unity システムのようなあれば、全部のための音声メール プロファイルを作成して下さい。余分行を追加する場合同じ CTI ルートポイントを使用できます。これはクラスタ間トランクを渡ってはたります。

注: 定義される CTI ルートポイントのために警告名前がディスプレイ (内部 発信者ID) としてワード「音声メール」を使用しないで下さい。ワード「音声メール」の使用により Cisco Unity は転送された コールとしてそれを処理するかわりにダイレクト コールとしてコールを、処理します場合があります。

## [関連情報](#)

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)